

殿堂入り花壇

過去のコンクールにおいて、
大賞を2度受賞した花壇

エイキKK
ツバキの会 (木場町)



下粟津町花の会



※殿堂入り花壇はコンクールに参加していません

2023夏 花のコンクール大賞



審査員長講評

審査員長 和田 博幸 氏

公益財団法人 日本花の会 特任研究員
樹木医

新型コロナウイルスが5月に感染症法上の5類へ移行し、4年ぶりに様々な行動規制が緩和され、花壇づくりにおいても活動しやすくなったと思います。これと引き換えに、今年は春先から気温が高く推移し、あっという間に夏を迎え、むしろ熱中症と花壇の水涸れに注意しながらの活動が増え、これまで以上にご苦労されたのではないのでしょうか。それでも活動を続けてくださった皆さんには本当に敬服します。

本コンクールは去る7月21日に、現地審査を伴う審査会を開催し、受賞者を決定しました。連日30℃を超える気温と強い日差しの中、それにも負けずに咲く花壇の花に何よりも励まされながら、厳正に審査しました。受賞された皆さんには審査員一同、心より祝福申し上げます。

さて小松市は2013年に花のまちづくりをスタートさせ、2021年にはそれまで続けてきたこの事業を深化・発展させた第三期推進プランを作りました。今年はその3年目にあたり、いよいよ成熟期を迎えようとしています。このプランでは3つのテーマ「花の文化」「花の拠点」「花の交流」を柱に、「みんなで咲かせる最幸の花のまちこまつ」を目標に様々な取り組みがなされ、審査ではその成果といえる花壇や活動を見ることができました。プラン作りに携わった者としてとても嬉しく思います。

花のまちづくりのさらなるレベルアップには、関係する個人や団体、行政が今まで以上に連携（コラボレーション）し、それぞれの活動のスタイルや花の種類、花の見せ方、栽培技術、そして活動から得られる喜びを共有（シェア）することです。これが原動力となって小松市の花のまちづくりのレベルがさらに高まり、全国からうらやましいと思われるまちをアピールしましょう。'コラボレーション&シェア'を合言葉に、花のまちづくりがいっそう発展することを期待しています。

来年は北陸新幹線小松駅が開業し、5月25日・26日に全国花のまちづくり小松大会が開催されます。全国から来られる方を花めくこまつで歓迎しましょう。



大賞

住宅型有料老人ホーム NOA (八幡)

講評 7月下旬にもかかわらず、ましてや30℃を超す日が何日も続くのに、ガーデン内にはバラが生き生きと咲き、目を疑うほどです。花を引き立てるように青々とした芝生とシバザクラが広がり、ガーデン全体を囲う樹林が落ち着きを醸しています。入居者のためのガーデンから進化して、誰をも受け入れてくれるような寛容さも感じます。生ごみコンポストを利用するなど環境に配慮したリサイクルやエコロジーな取り組みもされ、花の癒しと居心地よい空間は高齢者福祉施設の見本となる素晴らしい活動であり高く評価されます。

団体の部 (一般)

西軽海町一丁目町内会



講評 歩道整備により今までのコンテナを主にした花壇づくりがしにくくなったのを機に、町内会のメンバーが手作りで花壇をリノベーションしました。環境の変化に柔軟に対応し、花壇づくりが再開・継続できるのは、20年にもおよぶ花壇活動が町内に根ざしている証です。花壇は町内のDNAとして引き継がれており、優れた取り組みとして評価されました。



今江町町内会

講評 前川沿いに並んだ175個のプランターは、花のボリュームがあって壮観な景観を創り出しています。町内の個人と団体に所属する300人が活動しており、コミュニティーの高い結束が窺えます。年々栽培技術とデザインが良くなっており、会員に向上心が備わってきているように感じます。来年の進化が楽しみです。

花みずき会 (白嶺町)

講評 街路樹のひとつひとつの植樹樹花壇に違いがあって、歩きながら次はどんな花壇なのかが想像するだけでも楽しくなります。散歩される方もそう感じていることでしょう。活動に独創性と物語性があり、街路樹がない植樹樹にも花が植えられたことで、街路の景観向上にも寄与しています。

沖町町内会



金平町いきいきクラブ



講評 このコンクールの常連団体のひとつで、毎年、花壇デザインが変わるので、今年はどうのようなデザインなのか、見るのが楽しみな団体のひとつです。今年の花壇は花と株の大きさが揃い、立体的にも調和し、殺風景だった街角の景観に彩と潤いを演出しています。街並みの一角を彩る花壇の優良事例として評価されました。

講評 老人会が町会から任されている花壇は、手入れがきめ細かく花と株の大きさが揃い見栄えがします。活動は町内への心遣いも感じられます。花植えには小学生の親子が参加することで、世代交流と地域への愛着心が育まれ、子どもには花に親しむ気持ちが醸成されています。町ぐるみの活動と花への思いやりが結集した花壇づくりといえます。

奨励賞 島町町内会、JA今江女性部、フローラル西軽海NO2、上荒屋町町内会、おびし町老人会 (松寿会)、北陸電力株式会社、フローラル沖町、株式会社イケガミ

入選 符津地区資源保全会、木場さわやかクラブ、林町四ツ葉の会、扇町町内会、親和会 (四丁町)、小山田町仙寿会、矢田野町町内会、糸町町内会

努力賞 符津町町内会、東山町町内会、八幡公民館女性部、はまなす会・安宅新町町内会

団体の部 (児童・生徒)

犬丸小学校



講評 校門アプローチの花壇と玄関前のプランターの花は、5年生の25人が全員で水遣りや花がら摘み、草取りなどを行っています。花のボリュームがあって見栄えがし、手入れの良さが窺えます。毎朝花に「おはよう」とあいさつする児童の姿が目につきます。この花壇づくりの体験は、いい思い出として児童たちの記憶に長く残ることでしょう。

奨励賞 蓮代寺小学校、中海小学校、符津小学校、串児童クラブ、月美丘町内会

団体の部 (幼児)

銅賞



中海こども園

講評 園児たちが見やすく活動しやすい場所にプランターや花壇を設け、花植えや水遣りを親子でできるようにして、園児が花と接する機会が増えるよう、花育を意識した取り組みがされています。花の色合いも園児が喜びそうなビタミンカラーを多用しているところが微笑ましい花壇です。

奨励賞 松陽こども園、あたか認定こども園、のしろこども園

個人の部

石原 丈太郎 (村松町)



講評 鉢植えにした種々の花々を前庭に置き、道行く人が楽しめるようにデザインされています。大型のユリが飾られた時は、さぞかし見応えしたことでしょう。草丈の高低を考えて鉢の配置を工夫するなど、見られることを常に意識しており、花の魅力が大勢で共有しようとする姿勢があります。花栽培などのスキルも優れており高く評価されました。



田村 和子 (白江町)

講評 レンガで囲ったツゲの植込み、御簾垣、その上を覆うつるバラのアーチが整然と並び、御簾垣に掛けられたハンギングバスケットにセンスの良さを感じます。バラのアーチをくぐるとアプローチから中庭にかけて様々な花が咲き、前庭とは全く別のお宅を訪ねたようで、シーンの展開から花好きの様子が窺えます。



中田 順子 (中海町)

講評 前年に水害に遭った和風の庭は、石積みを活かして花壇として立て直し、花咲く素敵な庭にリノベーションしました。大きな石で囲んだ花壇には、いろいろな花がところ狭しに育ち、石とも調和して安定感があります。道路からもよく見え、まるで田園の中のおアシスのようです。

関戸 照枝 (金平町)



講評 奥行きのある庭で、外からも花が見えるようになっています。こぼれ種で芽生えた花苗を丁寧に移植して、手作り花壇を楽しんでいます。また、鉢植えに使った土は天日干しして再利用するなど、無駄がない花壇づくりには随所に工夫が見られます。花が介した仲間づくりにも熱心で、楽しみの輪が広がっているようです。

武田 雅克 (北浅井町)



講評 花壇づくりには適していなかった庭に堆肥や腐葉土を漉き込み、3年がかりで土づくりに成功し、今ではいろいろな花が咲く庭にしました。道路側からも見えるようにフェンスにして、同じ素材でアーチやトリスを置いて花を絡ませるなど、外からも見える花壇を意識しています。まるで町の中のパティオのようです。

奨励賞 加納 博子 (八幡)、吉浦 英裕 (八幡町)

